

にもれざる様にして、其中に肥たる土を入、蠶のふん或鶏家鴨の糞などを多く入をし付、水を加  
 け、土と思ひ合せ、たねを四粒宛入、灰糞を以ておほひ、生出て後も力次第糞水を度々そ、ぎ、つる  
 長く成てはなり花を見て先を留べし、あやしき屋の上には、せ、或は棚をゆひて、其上にまとは  
 するもよし、地には、する時は、瓜の下に、わらなどをしかせ、折々上を下に取返しをくべし、又手  
 にてなでさすれば、ながくはならずして厚く成ものなり、三月うへて、八月收むべし、器物にする  
 ば、よく熟し堅くなりたるを取て、水濕なき地を四五尺も深くほり、わらかこもを、土肌にしき隔  
 て、下には尙厚くしき、瓢を其中に頭の方を下にしてならべ、土を二尺ばかりおほひ、廿日ほどし  
 て取出せば、黄色に成たるを、口をきりあけ、さねを出し、それぐ、の器物とすべし、略 又大瓢を  
 作る法、穴を深さ廣さ各三尺ばかりに掘、其中に糞と土とを等分にませ合せ、穴の中一盃に入ふ  
 み付、底までしめりとをる程水を入、水のひいるを待て、たねを十粒ばかり、ばらりと蒔、土糞をお  
 ほひ、生じて長さ二尺餘の時、十筋のつるを一つに取合せて、土ぎは五六寸ばかりを布にて巻、其  
 上を芋を以てまとい、其上を泥を用ひて厚くぬりをけば、十日も過ずして、巻たる所付合て、つる  
 一筋に成なり、其莖の中にてうるはしく性の強きを、一筋残して、餘は悉く切去べし、其後一つの  
 つるを棚に引上れば、やがて花咲實を結ぶ、其内にて性のつよく、難なくふとるべきを一つ二つ  
 残し、餘は枝をも皆々つみ去べし、つるのさきをも長くはのばすべからず、但もとなりの一つ二  
 つは、つる付よはくて、ふとりて後あやうし、中なりのふとるべきを二つ残し置べし、もし早せば、  
 たびく、水をそ、ぎ、つねにうるほひを持すべし、かくのごとくすれば、水の四五斗も入ふとき  
 が出来るものなり、十筋のみにかぎらず、二筋三筋にても、右のごとくゆひ合せ、糞を多く用れば、  
 如形ふとし、又苗をうへをき、三月移しうゆる事、冬瓜に同じ。

〔宜禁本草乾〕苦瓠 甘寒有毒、多食發痲疾、脚氣、虛脹、冷氣、人忌之、瓠忽苦如膽者不可食、似越瓜長